愛知県からの受託業務の背景

―変化は意識の表と裏、生きている実感をしる―

無垢でも納得する逃げられない檻の中、愛は全て偏愛

最初の設計業務は、1977年の愛知県警察本部から受託の蒲郡警察署の空調熱源改修で、その後、1981年に碧南警察署、田原警察署の同様の業務を受託した。愛知県からの受託の設備設計は「渥美老人ホーム」の浄化槽設備である。渥美半島の突端、島崎藤村の「椰子の実」の歌で知られる伊良湖岬は、サーフィンのメッカでもある。その海岸の直角に位置する場所に、渥美老人ホームの建設が予定され、その浄化槽施設の設計を受託した。名古屋駅から現地まで、公共機関を利用して往路3時間を超える僻地に近い場所で、愛知県の担当の建築部谷口和明氏と初めての出会いとなった。それから30余年、谷口さんとは、愛知県の仕事で、格別の親しさで接していただき、ご教示、ご指導を仰いでいた。その中で、最も印象に残る業務は2002年の「環境にやさしい公共建築整備基準の作成」である。それに先立ち、1999年、「県有施設の長寿命化環境対策調査」と翌2000年、「長寿命化環境対策モデル調査」と続いて、地球環境と建築に特化した業務を委託されていた。一方、それ以前の1997年から2001までの5回にわたり毎年、愛知県建築技術研究所で、地球環境に配慮したグリーン開発、建築エコロジー、グリーンビルディング等の命題で、石黒に講義の機会が与えられ、愛知県の担当部局とは、親しく接する機会が出来てきていた。2002年愛知県は環境基本計画策定で、環境負荷の少ない「循環」を基調とした社会の構築を目指すものとしており、それに対応して作成した「環境にやさしい公共建築整備基準」では、建物用途別に、新築、改修に際し、環境性、省エネルギー性、経済性、快適性・健康での視点での効果を評価し、同時に、愛知県を7地区に分け、それぞれの地域特性も考慮したものとなっている。地区特性は気候（気温、雨、風、日照）、緑化率、自然公園配置、人口密度、公害防止で示して、ローカルスタンダードでの評価にもつなげている。評価方法しては、相対評価と絶対評価として、CO_2排出量計算ができるソフトも完成した。

2005年の愛・地球博では、市民地球村で、鳥取大学大学院で勉学の留学生を中心に総勢22人が出身国（韓国、中国、内モンゴル自治区、インド、ミャンマー、パキスタン、ネパール、バングラディシュ、エチオピア、モザンピーク、ジャマイカ、カナダの学生達とアメリカ、ガーナ、スペイン、日本の社会人）の環境問題の実状を発表した。社会活動の主導的なものの一つとして、1998年、1999年と、二回にわたり、2005年開催の愛・地球博に臨むワークショップを、地球環境グリーンセミナー（建築エコロジー）の講師として来日中のアメリカの環境活動家と担当建築部局と愛知県庁にて行った。

鳥取大学留学生プレゼンテーション　2005年 愛・地球博